

せいけん
詩集

第百十一篇

作：近藤せいけん

「魚釣り」

幼子が 海の釣堀で

釣り糸を たれる

すぐに 引きがあり

魚がかかる カワハギだ

もう夢中

「早く はりを外して」

パパは 針を外して

また釣り堀りに返す

「キャッチンアンド リリース」

帰りの車中 幼子は

得意に 何回も語る

「僕は六匹釣った 妹は二匹

パパは二匹」

「僕の勝ち すこいだろう」

やがて 身振り手振りが

止まって 静かになり

やがて 疲れて 眠りにつく

平凡な一日 陽が落ちてゆく